

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4110115799		
法人名	医療法人 長生会		
事業所名	ケアホームどんぐり		
所在地	佐賀市嘉瀬町中原1676-3		
自己評価作成日	平成22年1月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年3月3日	外部評価確定日	平成22年4月26日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の健康管理については、関連医療機関との連携により万全を期している。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

佐賀市郊外の閑静な所に立地し、経営母体の病院が併設されており、医療面での家族の安心にもつながっている。各居室の広さは同じだが床、壁面、カーテン等は色調が異なり、入居者や家族が自由に選べる様になっている。

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>							
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な会議などで繰り返し伝え、理念を全職員が共有できるようにしている。	定期的な会議などで繰り返し伝え、理念を全職員が共有できるようにしている。	「能力に応じた支援」「人格の尊重と利用者の立場に立った援助」「明るく家庭的な雰囲気と地域を大切に」を理念に掲げ、定期のスタッフ会議等で唱和するなどして共有に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	玄関前に花を置いたりして、散歩の途中に気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りをしている。入居者が外に出たとき等に積極的に声をかけ、交流を深めている。町内で開催される体育大会や夏祭りにも参加している。	玄関前に花を置いたりして、散歩の途中に気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りをしている。入居者が外に出たとき等に積極的に声をかけ、交流を深めている。町内で開催される体育大会や夏祭りにも参加している。	積極的に地域の方の見学を受け入れられたり、ボランティアを受け入れ、町内の行事やお祭り、敬老会等にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅で認知症の家族の介護に取り組んでいる家族からの相談に応じて、認知症の人の理解を促して具体的な支援の方法を指導している。	在宅で認知症の家族の介護に取り組んでいる家族からの相談に応じて、認知症の人の理解を促して具体的な支援の方法を指導している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に関き、当ホームの取り組んでいる内容について報告し、そこでの意見を実際のサービスに活かしている。	運営推進会議を定期的に関き、当ホームの取り組んでいる内容について報告し、そこでの意見を実際のサービスに活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。議事録も整理されている。参加メンバーは市の担当者、地域包括センター、家族、スタッフ等で構成されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人全体で連携を深めている。在宅介護支援センターとは深く関わっている。	法人全体で連携を深めている。在宅介護支援センターとは深く関わっている。	管理者を中心に市担当者と情報交換に努めるとともに地域包括センターとの電話連絡等により、協力関係の構築を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止にはグループ全体で取り組んでおり、職員はよく認識している。身体拘束はない。	身体拘束廃止にはグループ全体で取り組んでおり、職員はよく認識している。身体拘束はない。	「身体拘束」の事例はこれまでにない。「身体拘束」についての弊害もスタッフ会議、勉強会等で十分に認識し、それを共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会を設けて、高齢者虐待防止関連法についての研修を行っている。	機会を設けて、高齢者虐待防止関連法についての研修を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会を設けて、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修を行っている。	機会を設けて、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時はもとより、家族には、普段から希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。	契約の締結時はもとより、家族には、普段から希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。また、意見箱を設置し、意見を出しやすいよう配慮している。	希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。また、意見箱を設置し、意見を出しやすいよう配慮している。	「運営推進会議」には家族の出席もある。又、玄関には「意見箱」も設置し、面会時にも出来るだけ要望等を聞けるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を月に1回、必要がある場合はその都度開いている。職員の意見を活発に交換し、ケアに取り入れている。	会議を月に1回、必要がある場合はその都度開いている。職員の意見を活発に交換し、ケアに取り入れている。	職場としての雰囲気も明るく、なんでも気兼ねなくコミュニケーションがとれる雰囲気があり、スタッフ会議でも活発な意見の交換がなされ、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績により、仕事を任せるなどしている。	職員の努力や実績により、仕事を任せるなどしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会はもとより、日常の業務の中で職員が学べるよう、指導できる職員配置している。	定期的な勉強会はもとより、日常の業務の中で職員が学べるよう、指導できる職員配置している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、機会を捉えて職員を研修会に出すなど交流の機会を作っている。	運営者は、機会を捉えて職員を研修会に出すなど交流の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けたら、可能な限り、本人に一度ホームに来てもらっている。その際に、本人の要望などを聞いている。	相談を受けたら、可能な限り、本人に一度ホームに来てもらっている。その際に、本人の要望などを聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けたら、必ず一度ホームに来てもらっている。その際に、本人の状態や家族の要望などを聞いている。	相談を受けたら、必ず一度ホームに来てもらっている。その際に、本人の状態や家族の要望などを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに、現在の状況をできるだけ詳しく聞き、別のサービスが必要だと思われる場合は、そのサービスを紹介している。必要に応じて、具体的な施設を紹介している。	相談を受けたときに、現在の状況をできるだけ詳しく聞き、別のサービスが必要だと思われる場合は、そのサービスを紹介している。必要に応じて、具体的な施設を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	漬物の漬け方や野菜の育て方など、入居者の得意分野で職員は教えて頂き、入居者一人ひとりが活躍する場面を作っている。	漬物の漬け方や野菜の育て方など、入居者の得意分野で職員は教えて頂き、入居者一人ひとりが活躍する場面を作っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム便りに行事の予告をし、参加を呼びかけたり、誕生日等に、その方専用のホーム便りを作ったりして、家族の参加を呼びかけている。	ホーム便りに行事の予告をし、参加を呼びかけたり、誕生日等に、その方専用のホーム便りを作ったりして、家族の参加を呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人に会いに行ったり、必要に応じ通所を利用するなど、馴染みの場所や関係に配慮している。	本人の友人に会いに行ったり、必要に応じ通所を利用するなど、馴染みの場所や関係に配慮している。	入居者は地区、県内の方が多く、時には知り合い、友人等も尋ねて来られる。訪問の少ない入居者にはドライブがてらに馴染みの場所を尋ねたりして支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のいい入居者同士の交流を促すため、席順等に配慮している。	仲のいい入居者同士の交流を促すため、席順等に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、必要があれば、支援を行っている。	サービス利用(契約)が終了しても、必要があれば、支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の情報収集は勿論、入居後も本人や家族の意向は機会のあることに聞いている。	入居時の情報収集は勿論、入居後も本人や家族の意向は機会のあることに聞いている。	体験入居時及び入居時に本人や家族からの情報収集を充分に行い、日常的にもスタッフは入居者とゆっくり過ごせる時間が持てる様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	相談を受けたら、必ず一度ホームに来てもらっている。その際に、本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。	相談を受けたら、必ず一度ホームに来てもらっている。その際に、本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	相談を受けたら、必ず一度ホームに来てもらっている。その際に、本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。	相談を受けたら、必ず一度ホームに来てもらっている。その際に、本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見を必ず聞き、意見や要望を計画書に反映している。	家族の意見を必ず聞き、意見や要望を計画書に反映している。	体験入居時に本人、家族より充分に聞き取りをしている。入居後も暫くしてスタッフ会議でスタッフ全員の意見を出し合うとともに、かかりつけ医の意見も参考にして介護計画を作成している。計画の見直しも本人、家族を中心に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個人個人のケース記録を作成し、よく観察する等して記録することを心掛けている。入居者一人一人に担当をつけており、細やかな記録を残している。	入居者個人個人のケース記録を作成し、よく観察する等して記録することを心掛けている。入居者一人一人に担当をつけており、細やかな記録を残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調が悪化し、治療が必要な場合であっても、医療連携体制等により、治療を受けながら可能な限り入居を継続している。	入居者の体調が悪化し、治療が必要な場合であっても、医療連携体制等により、治療を受けながら可能な限り入居を継続している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(2丁目) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに来てもらったり、運営推進会議に地元の民生委員に来てもらうなど、協力してもらっている。	ボランティアに来てもらったり、運営推進会議に地元の民生委員に来てもらうなど、協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向に応じて、それまでのかかりつけ医の診療を継続している。	本人や家族の意向に応じて、それまでのかかりつけ医の診療を継続している。	本人、家族の希望を最大限尊重し、従来のかかりつけ医での受診を支援している。経営母体の病院が併設されている事により、日頃の健康管理や医療面での安心につながっている。併設病院を持つホームとしての特徴を本人、家族とも理解されていて希望により協力医への転院もある。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしている訪問看護の看護師と、随時情報交換をし、必要な指示をもらっている。	医療連携をしている訪問看護の看護師と、随時情報交換をし、必要な指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態が安定した時点で、退院の為の話に行っている。関連病院の場合は特に、入院時の情報提供や早期退院に向けた話し合いが容易であり、話し合いを行っている。	状態が安定した時点で、退院の為の話に行っている。関連病院の場合は特に、入院時の情報提供や早期退院に向けた話し合いが容易であり、話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応の指針を作成し、入居時に確認を取っている。必要があれば、随時繰り返して説明し、変更があればすぐに対応している。	重度化した場合の対応の指針を作成し、入居時に確認を取っている。必要があれば、随時繰り返して説明し、変更があればすぐに対応している。	「重要事項説明書」には「重度化や終末期に向けた方針」が文書化されており本人、家族とも話し合いがもたれ、方針が共有されている。かかりつけ医、協力医との話し合いも持たれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の救急救命の研修は定期的に行っている。	急変時の救急救命の研修は定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行っている。	定期的に防災避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行っている。	年2回の防災(消火、避難)訓練を実施している。夜間想定訓練では併設施設との協働で実施している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は、「人生の大先輩である」と言う事を機会をとらえて繰り返し話し、尊敬を保つよう敬いの気持ちを忘れないようにしている。	入居者は、「人生の大先輩である」と言う事を機会をとらえて繰り返し話し、尊敬を保つよう敬いの気持ちを忘れないようにしている。	入居者の「人格の尊重」と「プライバシーの確保」について、スタッフ会議やカンファレンス等で確認し合いながら理解に努めている。言葉かけにも注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の入居者との会話の中で、選んでもらう場面を意識して造り、意見を聞いている。担当職員を中心に個別に対応している。	日常の入居者との会話の中で、選んでもらう場面を意識して造り、意見を聞いている。担当職員を中心に個別に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の気持ちを最優先にしたケアを心がけている。職員の都合で切り上げたり、急かしたりしていない。	入居者の気持ちを最優先にしたケアを心がけている。職員の都合で切り上げたり、急かしたりしていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとりに整容道具を用意しており、職員も個性を大切に服装をさりげなく支援している。出張美容を希望する人、外部の理容室を利用する人など、希望に応じて援助している。	入居者一人ひとりに整容道具を用意しており、職員も個性を大切に服装をさりげなく支援している。出張美容を希望する人、外部の理容室を利用する人など、希望に応じて援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好に応じて、メニューを変えている。利用者の状態に応じて、食事の準備や後片付けをしてもらっている。	一人一人の嗜好に応じて、メニューを変えている。利用者の状態に応じて、食事の準備や後片付けをもらっている。	入居者とスタッフが一緒に食卓を囲み、楽しい雰囲気のもとに食事がなされている。準備や片付けも一人ひとりの力量に応じ、スタッフと入居者が一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量は記録している。個人の嗜好に合わせて、メニューを変えることもある。	一人一人の食事摂取量は記録している。個人の嗜好に合わせて、メニューを変えることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの自立度に合わせて、毎食後の歯磨きと口腔ケアを支援している。	入居者一人ひとりの自立度に合わせて、毎食後の歯磨きと口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄チェック表を作り、排泄パターンの把握をしている。おむつ使用者も日中はトイレに誘導している。	入居者一人ひとりの排泄チェック表を作り、排泄パターンの把握をしている。おむつ使用者も日中はトイレに誘導している。	安心パンツやパット等の利用している方もあるが、排泄チェック表を用いて自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日朝タ2回、ティータイムを行い、水分補給をしている。入居者の状態に応じて、散歩等も行っている。	毎日朝タ2回、ティータイムを行い、水分補給をしている。入居者の状態に応じて、散歩等も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせて援助している。入浴が嫌いな入居者には、入浴剤を使用するなどの工夫をしている。入居者の要望によっては夜間も対応し、時間も本人のペースを尊重している。	入居者の希望に合わせて援助している。入浴が嫌いな入居者には、入浴剤を使用するなどの工夫をしている。入居者の要望によっては夜間も対応し、時間も本人のペースを尊重している。	入浴は可能な限り入居者の希望に添うように支援している。時間もゆっくりとついている。体調が良くなく入浴出来ない方には足浴、清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきの悪い方には居間でお茶を飲んでもらったり、話し相手になったりして気持ちを落ち着かせ、ゆったりとした気分で自然に眠れるように援助している。	寝つきの悪い方には居間でお茶を飲んでもらったり、話し相手になったりして気持ちを落ち着かせ、ゆったりとした気分で自然に眠れるように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理はホームで行い、その都度職員が手渡し、服薬を確認している。薬の内容は、処方されるたびに記録し、内容を把握している。	薬の管理はホームで行い、その都度職員が手渡し、服薬を確認している。薬の内容は、処方されるたびに記録し、内容を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の持てる能力や希望に応じ、調理・園芸・掃除などの役割を持ってもらい、ご自分の仕事と認識して頂けるよう支援している。	入居者の持てる能力や希望に応じ、調理・園芸・掃除などの役割を持ってもらい、ご自分の仕事と認識して頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて、外出の支援をしている。散歩に出ることにより入居者の安定を図る場合もある。	希望に応じて、外出の支援をしている。散歩に出ることにより入居者の安定を図る場合もある。	日常的に、天気が良く、暖かい日には出来るだけ戸外へ出ていただくように支援している。又、年に数回ドライブを計画し、近隣に弁当持参で出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(1丁目)	自己評価／ユニットB(2丁目)	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物支援を行っており、高額にならない程度のお金を持って頂いている。	買い物支援を行っており、高額にならない程度のお金を持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方が手紙や電話を使いやすいように日常的に言葉かけを行っている。	入居者の方が手紙や電話を使いやすいように日常的に言葉かけを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の表札やトイレの表示を手作りで作成し、風呂ものれんをかけるなどし、居間には炬燵を配置するなど、家庭的な雰囲気配慮している。	各居室の表札やトイレの表示を手作りで作成し、風呂ものれんをかけるなどし、居間には炬燵を配置するなど、家庭的な雰囲気配慮している。	共用の空間は両ユニットとも広々と保たれている。廊下にはそれぞれ自然の明るさが採り入れられていて、温・湿度も適当である。ソファも用意されていて居心地よく過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下を含む共有空間を広く取り、畳を使用したりリビングには炬燵を置いている。応接セットや食堂など、入居者が好きな場所を選べるようにしている。外にはベンチも配置している。	廊下を含む共有空間を広く取り、畳を使用したりリビングには炬燵を置いている。応接セットや食堂など、入居者が好きな場所を選べるようにしている。外にはベンチも配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く取り、家具等の持ち込みは積極的に受け入れている。布団やベッドも持ち込みと貸し出しを選べるようにしている。	居室は広く取り、家具等の持ち込みは積極的に受け入れている。布団やベッドも持ち込みと貸し出しを選べるようにしている。	居室は十分なスペースが確保されており、清潔である。カーペットを用いたり仏壇を持ち込まれている居室もある。	本人の意向を確認しながら居心地よく安心して過ごせる居室となるよう入居者の馴染める装飾、家族の協力を得ながら一層の工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂の手洗い洗面台は、椅子に腰掛けのまま使用できるように低くなっている。台所の流しや調理台等、適当な高さに完備している。物干し台の高さも調整し、入居者が使いやすいように配慮し、浴室やトイレの床は滑りにくい材質になっている。	食堂の手洗い洗面台は、椅子に腰掛けのまま使用できるように低くなっている。台所の流しや調理台等、適当な高さに完備している。物干し台の高さも調整し、入居者が使いやすいように配慮し、浴室やトイレの床は滑りにくい材質になっている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
		○	○	3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)			1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
		○	○	3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)			1. 大いに増えている
		○	○	2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない